

研究活動

佐藤隆彦

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当頁数
(著書)						
1. 『密教の実践 解説』密 教大系第9巻	共著	1994. 11 (平成6年11月)	法蔵館		松長有慶と共著	
2. 『真言宗の法式』乾	共著	1996. 2 (平成8年2月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたる ともに、初めて写真で解説した書物	添野智謙・新井弘順 佐藤正伸	
3. 『真言宗の法式』坤	共著	1997. 4 (平成9年4月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたる ともに、初めて写真で解説した書物		
4. 守覚法親王と仁和寺御 の文献学的研究 「守覚法親王作『十八道 第』について」	共著	1998. 2 (平成10年2月)	勉誠社	論文篇	阿部泰朗・山崎 誠 上川通夫・土谷 恵 小島裕子・佐藤正伸 横内祐人・福島金治 松 菡 齊・松尾恒一	389-416頁
5. 仏教における日常生活 「真言宗における灌頂」 意義	共著	1998. 8 (平成10年8月)	平楽寺書店		清水 乞・平井有慶 武 覚超・岡 亮二 紅様英顕・徳永大信 高城宏明・佐藤正伸 角田泰隆・中尾良信 鎌主良敬・一楽 真 田代俊孝・皆川広義 田中典彦・芳村博実 前田惠學・鈴木岩弓 山口しのぶ・山極伸之 前谷忠昭・Shoryu Katsura 鈴木岩弓・池上要靖 阿 理生・下田正弘	
6. 四度加行 上	単著	2000. 12 (平成12年12月)	四季社	十八道次第の典拠となる『無量寿軌』 十八契印』、金剛界次第の典拠となる 蓮華部心軌』についての研究		
7. 四度加行 中	単著	2001. 7 (平成13年7月)	四季社	胎藏次第の典拠となる『青龍軌』 についての研究		
8. 四度加行 下	共著	2002. 1 (平成14年1月)	四季社	護摩次第の典拠となる『瑜伽護摩軌』 『建立護摩軌』についての研究	北原裕全と共著	255-477頁
9. 『三僧記類聚』に関する 合的研究	共著	2002. 3 (平成14年3月)	高野山大学文学部 研究代表武内孝善	『三僧記類聚』に関する総合的研究	武内孝善、竹内 信夫と共著	224-247頁
10. 別行次第秘記 一	単著	2002. 12 (平成14年12月)	四季社	浄厳撰述『別行次第秘記』について の研究		
11. 成賢作法集	共著	2003. 6 (平成15年6月)	四季社	真言祈祷大系Ⅲ 編集代表をつとめる とともに解説を執筆	川崎一洋と共著	502-530頁
12. 御流神道竪横印信	共著	2003. 7 (平成15年7月)	四季社	真言祈祷大系Ⅱ 編集代表をつとめる とともに解説を執筆	北原裕全と共著	504-506頁
13. 家族のあり方と仏教	共著	2004. 1 (平成16年1月)	平楽寺書店		土田隆太郎 等同俊英 立川武蔵他27名 で執筆	163-175頁
14. 密教史概説の手引き	共著	2004. 3 (平成16年3月)	高野山大学通信教育室		武内孝善、奥山 直司と共著	63-69頁
15. 真言宗祈願作法集成	共著	2005. 3 (平成17年3月)	四季社	共同編集と解説を担当	小林弘潤、曾根義泉 辻雅榮 美松寛昭 と共同編集	318-328頁
16. 真言宗祈願作法手文三巻	共著	2005. 6 (平成17年6月)	四季社	上記12の本を実用的に次第にしたもの	12と同	
17. 阿字観の実習とその 現代的意義	単著	2010. 2 (平成22年2月)	高野山大学	高野山大学 いのちのセミナー テキスト		

18. 受戒について	単著	2010. 3 (平成22年3月)	大本山大覚寺	サーガラ叢書12として刊行されたもので、受戒の意義について述べたもの		
19. 灌頂儀礼とその信仰	共著	2014. 9 (平成26年9月)	平楽寺書店	『日本仏教学会年報』79号を単行本と出版したもの		
27. 引導作法の研究	共著	2015. 9 (平成27年9月)	高野山真言宗布教研究	引導作法の歴史について学術的方面から考察したもの	加地伸行 壽山良光 今村純訓密門光範 米田弘仁と共著	145-224頁
(学術論文)						
1. 『十八道念誦次第』の特徴について(Ⅰ)	単著	1986. 3 (昭和61年3月)	密教学会報25 高野山大学			72-85頁
2. 『十八道念誦次第』の特徴について(Ⅱ)	単著	1987. 3 (昭和62年3月)	密教学会報26 高野山大学			84-98頁
3. 理趣経法について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	宗教研究275			183-184頁
4. 『五輪投地次第』の作者について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	密教学研究20 日本密教学会			73-84頁
5. 『胎蔵略次第』について	単著	1989. 12 (平成元年12月)	密教文化167 高野山大学			22-31頁
6. 『十八道念誦次第』について－結界法を中心として－	単著	1991. 2 (平成3年2月)	密教文化173 高野山大学			54-72頁
7. 『胎蔵大法対受記』について(一)－円珍の説を心として(上)	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26 高野山大学			73-97頁
8. 護身法について	単著	1993. 5 (平成5年5月)	高野山大学論叢28 高野山大学			1-16頁
9. 勸請法について－『十道念誦次第』を中心とし	単著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学研究26 日本密教学会			123-135頁
10. 『十八道念誦次第』の立過程について	単著	1995. 2 (平成7年2月)	高野山大学論叢30 高野山大学			1-20頁
11. 浄厳の一座行法理解について－『別行次第秘記』中心として－	単著	1996. 3 (平成8年3月)	印度学仏教学研究 88 44-2 日本印度学仏教学会			254-258頁
12. 『一法界ソリヤ法』について	単著	1996. 9. (平成8年9月)	高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集			171-185頁
13. 浄三業について	単著	1997. 1 (平成9年1月)	密教文化研究所紀要 10			37-61頁
14. 空海作十八道次第の研究	単著	1997. 3 (平成9年3月)	空海研究 福建美術出版			301-315頁
15. 『五輪投地次第』について	単著	1998. 1 (平成10年1月)	密教文化研究所紀要 密教文化研究所			81-186頁
16. 真言宗における灌頂の義	単著	1998. 4 (平成10年4月)	日本仏教学会年報 63号			107-120頁
17. 日本密教受容の背景についての考察－浄行をワードとして－	単著	1999. 1 (平成11年1月)	高野山大学密教文化 研究所紀要別冊 1			35-60頁
18. 密教福祉と阿字観－阿字観の無限の可能性－	単著	2001. 3 (平成13年3月)	密教福祉1号			130-150頁
19. ターミナルケアと阿息観－真言宗における死と看取	単著	2002. 3 (平成14年3月)	密教福祉2号			99-120頁

20. 密教学と密教福祉	单著	2004. 5 (平成16年5月)	日本仏教学会年報69号			163-175頁
21. 真言密教における在家と 関わり—現代的意義を論ず のに欠くべからざる視点—	单著	2007. 3 (平成19年3月)	密教学研究39号			71-84頁
22. The Modern Significance of Shngon Esoteric Meditation	单著	2008. 9 (平成20年9月)	ExecutiveCommittee koyasan University			66-77頁
23. 『真言宗古字書資料集』 説	单著	2009. 3 (平成21年3月)	高野山大学密教文化研 究所刊			1-32頁
24. 秘密灌頂について —天台密との関わりについて—	单著	2010. 3 (平成22年3月)	密教学研究42号			27-47頁
25. 灌頂儀礼とその信仰	单著	2014年8月 (平成26年8月)	日本仏教学会年報79号			1-22頁
26. 中院院所伝の『理趣經 について—『一法界ソリヤ 法』を中心として—	单著	2015年12月 (平成27年12月)	印度学仏教学研究64-1			12-18頁
27. 天台密教の灌頂について —三部灌頂説の再検討— (その他)	单著	2016年2月 (平成28年2月)	高野山大学論叢51卷			1-16頁
1. 新刊紹介『真言密教印 写真解説』		1991. 3 (平成3年3月)	密教学研究23 日本密教学会			218-222頁
2. 密教を知るための手引 『事相』		1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報33 高野山大学	解説		155-173頁
3. 伝授受法 (安祥寺流・勸修寺流・ 心院流・三宝院流・西大 流・西院流・保寿院流・ 摩山流・伝法院流・小島 流・中院流・持明院流・ 沢諸法流・御流神道)						
4. 『密教を知るための ブックガイド』	共著	1995. 11 (平成7年11月)	法蔵館			207-227頁
5. 新安流四度口訣集 上・中・下巻		1996. 4 (平成8年4月)	隆昌堂	編集・校正		
6. 高野山七弁天		1996. 7 (平成8年7月)	高野山大学学報36			13-17頁
7. 祈禱(『日本の仏教』6)	共著	1996. 8 (平成8年8月)	法蔵館			84-88頁
8. 生命倫理シンポジウム 死と看取り		1996. 2 (平成8年2月)	高野山時報に掲載 (10回)			
9. 稲荷大会参加雑感		1997. 6 (平成9年6月)	宗教民俗研究第7号 宗教民俗研究会			111-112頁
10. 『覚禪鈔』についての 文献学的研究		1999. 11 (平成11年11月)	鹿島美術研究 年報16号別冊	共同報告 代表：上川通夫		
11. 絆	共著	2007. 6 (平成19年6月)	高野山大学	高野山大学人権講話集		46-51頁
12. 教学再考～私たちはいか して法を伝えていくか～	共著	2015. 3 (平成27年3月)	智山伝法院	現代密教26号 特別講習会講演録		169-227頁



密教文化研究所兼任研究所員 高野山学園評議員

学会等および社会における主な活動		佐藤隆彦
平成14年6月	密教福祉研究会理事（平成18年まで）	
	空海学会幹事	
平成26年6月	日本印度学仏教学会評議員	
平成26年7月	高野山瞑想実習（高野山学）	
平成27年7月	日本密教学会理事	
平成27年7月	高野山学園評議員	
平成27年9月	高野山瞑想実習（高野山学）	
大学行政への関わり（所属委員会）		
平成26年	学長室長 別科主事 総務委員会（委員長） 教務委員会	
	学生部協議会 大学院委員会 密教文化研究所兼任研究所員	
平成27年	副学長（7月から） 学生部協議会委員 大学院委員会委員	
	密教文化研究所兼任研究所員 研究書協議会委員	
平成28年	副学長 学生部協議会委員 大学院委員会委員	
	密教文化研究所兼任研究所員 研究書協議会委員	